

船舶事故調査報告書

平成29年1月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年7月29日 07時10分ごろ
発生場所	広島県大竹市阿多田島南東方沖 阿多田港猪ノ子東防波堤灯台から真方位190° 1,050m付近 (概位 北緯34° 11.1′ 東経132° 19.0′)
事故の概要	漁船第三十五大井丸は、北進中、また、プレジャーボート毅は、錨泊中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成28年8月3日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 第三十五大井丸、6.0トン HS2-3706（漁船登録番号）、有限会社大井水産 第270-46810号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 毅、5トン未満（長さ5.37m） 270-39928広島、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型（若年者5トン） B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	A なし B 軽傷 1人（船長B）
損傷	A 右舷船首船底部に擦過傷 B 左舷船尾部に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南西、風速 約1.6m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、阿多田島南方沖を約20ノットの対地速力とし、船首が浮上して船首方に死角が生じた状態で、手動操舵により東進していた。 船長Aは、阿多田島南東方沖に至り、阿多田島の岸に沿って北進することとし、左転して航行したところ、衝撃を感じた。 船長Aは、左転中、A船に向かってくる第三船を見ていた。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、錨泊して釣りを行っていた。 船長Bは、A船が北に針路を変えてB船の船尾方から接近してくるのを認め、A船に向かって両手を挙げて大声を発した。 船長A及び船長Bは、いずれも救命胴衣を着用していなかった。
分析	A船は、船長Aが前路の見張りを行っていなかったことから、錨泊中のB船に気付かずに航行を続けたものと考えられる。 B船は、船長Bが接近するA船に気付いたものの、機関を始動してA船との衝突を避けるための動作をとらなかったものと考えられる。

原因	本事故は、阿多田島南東方沖において、A船が北進中、B船が錨泊中、船長Aが、前路の見張りを行わず、また、船長Bが、機関を始動してA船との衝突を避けるための動作をとらなかったため、両船が衝突したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 常時適切な見張りを行うこと。・ 機関を始動して適切に衝突を避けるための動作をとること。・ 小型船舶に1人で乗船するときは、救命胴衣を着用すること。